

2024年度 事業の取り組み

インターネット注文サイト「とうとねっと」のお楽しみ機能として展開している「ベジポン!」。一定の期間、購入金額や頻度に応じて「ベジポイント」が貯まり、貯めたポイントに応じて、あらかじめ選んだコースの野菜や果物がバーチャル農園で育ちます。期間内に目標ポイントに達すると、後日、実物の野菜・果物が届く仕組みです。



2024ベジポン! 第5栽培期間(10月4回～12月2回)の取り組みの様子

東都生協のプライベートブランド(PB)「わたしのこだわり」は、「わたしの=組合員の」「こだわり=願い・要望」と捉え直し、商品仕様の見直しを進めており、たんばく加水分解物を使用している商品は順次リニューアル時に不使用仕様に改めています。東都生協の商品の考え方・基準ではたんばく加水分解物を使用とはしていませんが、PB商品で要望を受け止め、組合員に支持される取り組みを推進します。



まずは「東都国産ゆず白菜」と「東都サラダ専科」から着手しました

コープさっぽろでの取り組みの全国版「みんなのよきかせ絵本大賞」に東都生協も参加。東都生協が商品をお届けしている保育園にご協力いただき、大賞候補20作品から園児の反応や保育士の推薦を総合して「園のお薦め」を選出していただきます。



社会福祉法人杉の子保育園
池尻かもめ保育園に絵本をお届けしました。

配食事業では、6月4回より、これまで要望の多かった若者向けメニューとして、たんばく質が多めに摂れる新商品「KARADA元気」の企画を開始しました。環境に配慮したサトウキビ由来のワンウェイ容器を使用しています。



5月より、草加要冷セットセンターが無事稼働しています。職員からセンター長を配置し、セットセンターの全体的な管理に向けて一歩を踏み出しました。



草加要冷セットセンター外観

共済事業では、コープ共済の「お誕生前申し込み」受け付けが9月1日より始まり、お誕生前のお子さんの健康状態にかかわらず申し込みができるようになりました。



供給専門職員が長く東都生協で働き続けられるよう、10月より、非正規雇用から「限定正規職員」(供給職、勤務先の限定)へ処遇を改善しました。

職員の産地研修を経て、東都生協の産直を理解し、得られた知識を商品利用促進や組合員とのコミュニケーションに生かしています。



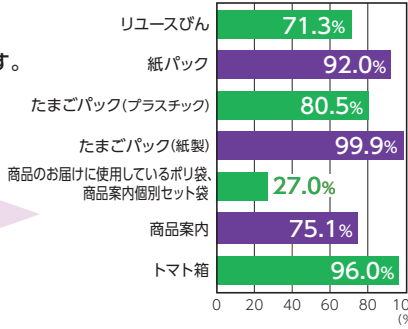
東都生協が取り組む募金・署名・3R活動* 報告

※3R活動とは

- ①リデュース(発生抑制)
- ②リユース(再使用)
- ③リサイクル(再生利用)です。

リユース・リサイクル品は、毎週の供給時に回収しています。大切な資源ですので、東都生協にご返却ください。

リユース・リサイクル品の回収率 【2024年11月20日現在】



●きょうされん※1 第47次国会請願署名※2.....4,057筆
※1 障害のある人たちが地域社会の中で、豊かに働き暮らすことを目指して活動する全国組織
※2 障害福祉についての法制度拡充を求める請願署名

●優生保護法の被害に対し最高裁判所に人権の砦として正義・公平に基づく判決を求める署名.....3,805筆

●リサイクル洗びんセンター支援募金.....2,113,400円

●第23回書き損じはがきなど回収キャンペーン.....4,803,138円
(きょうされん行き(書き損じはがき):1,466,092円、ハンガー・フリー・ワールド行き(はがき以外):3,337,046円)

●災害支援募金
・東日本大震災支援募金.....445,200円
・1点1円募金.....11,113円
・2024年能登半島地震災害支援募金.....54,052,139円

●未来につなぐ募金.....4,995,959円
(2024年度助成金額上限2,000,000円含む)



11月度までの新規加入者数は、イベントを中心としながら10,674名となっています。供給体制不足のなか、職員の奮闘や仲間づくりボランティアや組合員組織の支援を得ながら、前年を約2,500名上回っています。共同購入事業の1人あたり利用額は毎月6,000円台で推移し、11月度時点の平均は6,201円となっています。コメ不足の際には取引先の協力もあって何とか欠品を出さずにお届けすることができました。弁当配食事業は販売促進に取り組み前年、予算を上回っています。

生活支援事業は家事代行、不用品整理の件数が増え前年、予算を上回っていますが、施工業務を内製化したことにより供給剰余金は前年、予算を下回っています。生活文化事業は前年を下回っていますが、チケットを中心に予算は上回っています。事業経費は、人件費は前年、予算を下回っている一方、物件費は草加要冷セットセンター稼働に伴う減価償却費、高騰が続いている電気代、新規組合員拡大のための広報費等が増加し、前年を上回っています。

※数値は2024年11月20日現在

利用状況

延べ利用人数 3,454,277人
注文書1枚当たり利用高 6,201円

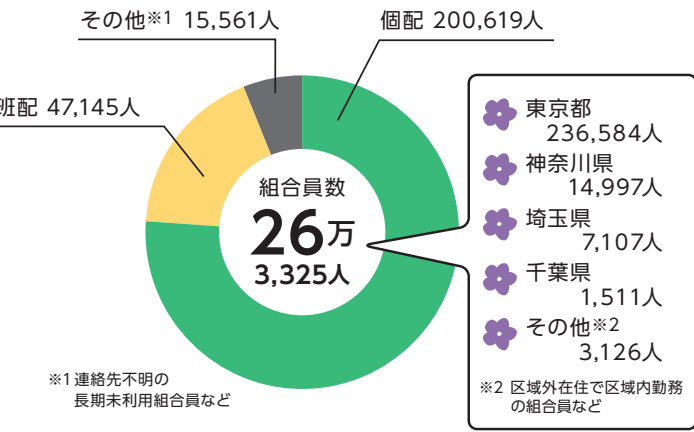
仲間づくり

加入者数 10,674人
脱退者数 7,849人
増加数 2,825人

出資金総額と組合員1人当たり出資金額

出資金総額 (出資預かり金を含む) 65億8,211万円
組合員1人当たり出資金額 24,996円

組合員人数



決算表

	2024年度実績 (11月度累計)	2024年度 予算比	説明
1. 供給高	218億9,485万円	99.6%	各事業の供給高合計
(1) 共同購入事業	214億2,051万円	99.5%	個配・班配の供給高
(2) 弁当配食事業	2億6,948万円	102.4%	夕食宅配の供給高
(3) 生活文化事業	1億5,395万円	106.2%	チケットなどの供給高
(4) 生活支援事業	5,092万円	100.5%	生活支援の供給高
2. 供給剰余金	54億 781万円	99.5%	各事業の供給剰余金 (供給高-供給原価) 合計
3. その他事業収入	4億6,877万円	96.9%	手数料収入の合計
4. 事業総剰余金	58億7,658万円	99.3%	供給剰余金とその他事業収入の合計
5. 事業経費	62億9,573万円	98.8%	人件費と物件費の合計
(1) 人件費	26億4,010万円	99.5%	役職員の給与、賞与、退職金などの費用
(2) 物件費	36億5,563万円	98.2%	組合員活動費、個配委託料、商品案内などの費用
6. 事業剰余金	-4億1,915万円	92.3%	事業総剰余金から事業経費を差し引いた剰余金
7. 事業外損益	2億4,657万円	142.2%	事業以外から得られる収入や支出
8. 経常剰余金	-1億7,258万円	61.5%	事業剰余金に事業外損益を加えた剰余金

※四捨五入しているため、合計が合わない場合があります。予算比がマイナスの場合は表記していません。

2025年度 活動・事業の計画(案)

1. 持続可能な事業経営

供給高で前年伸長を継続的に実現するために、組合員の純増数6,000名、新規組合員の3カ月後利用継続率80%と一人当たり平均利用高5,000円を目指します。また、持続可能な事業経営に向けて3カ年事業計画を策定します。

2. 食料生産と安定供給

異常気象や温暖化による栽培適地の変化に対して、組合員への安定供給が可能な産地リレーを模索します。また、需給調整や労働力不足に対する取り組みを具体化していきます。

3. 地域密着型の事業と活動

組合員活動と協同組合間連携や他団体との協同で、2025国際協同組合年、被爆80年、阪神・淡路大震災30年も意識しながら、平和、環境、福祉、食と農、くらしの取り組みを進めます。

4. 情報でつながるネットワーク構築

SNSがコミュニケーションツールとして比重が高まる中で、これまでのWeb活用に加え、新たに導入するアプリを効果的に活用して東都生協と組合員とのつながりを深めます。

5. 人財育成と働きやすい職場づくり

労働力不足を前提に業務構造の組み立てや人財管理を見直し、多様で柔軟な働き方やマルチで業務に取り組む人財の育成を追求します。



計画案についても、「わたしの声カード」であなたの意見・要望をお寄せください。

〈第1回総代会議〉

2024年11月22日～26日、オンライン2会場を含む計8会場で開催。
2024年度の活動・事業の中間報告と質疑応答を行い、分散会では米不足を糸口に、組合員として、また東都生協として、産直産地とのつながり方をどのように強化していけばよいかについて意見を交換しました。

分散会で他の組合員の皆さんの声を聞くことができ、良い経験になりました。

〈総代の声〉

日頃交流がない総代の方々とお話できてよかったです。

出席した皆さんも同じような思いでこだわりを持って生活されていると知り、気がついたことを言葉にして共に考えていけたらよいと思いました。

今まで活動以外で組合員の方と話す機会がなかったので新鮮でした。もっといろんな地域の方と交流できると視野が広がっていくのでは…とも思います。



総代会議の様子